

## 企画指導担当

# 水産研究部企画調整事業

堤憲太郎・山本義博

## 事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」に係る業務を行った。

### 1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、栽培資源チーム、養殖環境チーム及び浅海・内水面グループの浅海チーム、内水面チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図る。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等を企画、立案する。

### 2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報拠点としての機能の充実に努める。

### 3. 研修事業

国内外からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図る。

## 事業の方法

### 1. 企画調整事業

#### 1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズに迅速、的確に対応し、効率的な調査・研究活動を推進することにより、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき会議を運営した。会議は原則として月 1 回の開催を計画した。また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画調整会議（メンバー：企画指導担当総括及び浅海チームリーダー）及びセンター所属長会議（メンバー：部長、グループ長）に参加した。

### 2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究・開発を推進するため、水産研究部（上浦）と浅海・内水面グループの研究予算等の調整と運用を行った。

### 3) 大分県水産研究推進検討委員会（所内評価）

研究課題の推進に際し、必要な助言、評価及び検討を行うことにより、研究レベルの向上と効率化を図るため、設置要綱に基づき委員会を運営した。

### 4) 大分県農林水産研究アドバイザー会議

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究推進本部設置要綱並びに試験研究評価実施要領に基づき、学識経験者等のアドバイザー委員から構成される水産研究部アドバイザー会議を開催し、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイスを受けた。

## 2. 広報広聴事業

### 1) 広報

#### A. 研究発表会等

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催した。さらに、一般消費者を対象に、豊かで安全・安心な食を提供するための研究機関の取り組みを紹介することを目的にセンター本部が開催した研究紹介で水産関係の試験研究の取り組みを発表した。

#### B. 刊行物等

##### a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、平成 28 年度事業について、水産研究部（上浦）と浅海・内水面グループ分をまとめた事業報告書を作成し、ホームページで公開した。

##### b) 広報紙 AQUA-NEWS

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA-NEWS を編集、発行した。

#### C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>）において、水温情報、漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

## 2) 広聴

### A. 水産研究・普及連絡会議

研究者と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

### B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

## 3. 研修事業

### 1) 視察・研修受入

開かれた研究機関として機能することを目的として、視察、見学者への説明や案内等を行った。

また、必要に応じ、部門ごとの研修、国外からの現地視察や実習等にも対応した。

## 事業の結果

### 1. 企画調整事業

#### 1) 大分県水産研究企画調整会議

今年度は会議を 11 回開催し、各部所の行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

#### 2) 研究予算調整

本部策定の予算編成方針及び水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の予算を取りまとめた。

#### 3) 大分県農林水産部水産研究アドバイザー会議

2017 年 12 月 26 日に大分県農林水産部水産研究アドバイザー会議を開催し、新規 4 課題について専門分野の技術的アドバイスや意見を受けた。(表 1-1、表 1-2)。

### 2. 広報広聴事業

#### 1) 広報

##### A. 研究発表会等

2018 年 1 月 25 日、26 日に大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催し、水産研究部 7 課題、浅海・内水面グループ 4 課題、水産業普及指導員 1 課題、水産振興課 1 課題の研究発表があった(表 2)。

##### B. 刊行物等

###### a) 事業報告書

水産研究部、浅海・内水面グループの平成 28 年度の事業報告を編集、作成し、ホームページで公開

した。

###### b) 広報紙 AQUA-NEWS

本年度は、9 月に第 45 号、1 月に第 46 号を編集、発行し、県内外の関係機関に配布した。

##### C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

## 2) 広聴

### A. 水産研究・普及連絡会議

2017 年 5 月 24 日(水産研究部)、6 月 2 日(浅海・内水面グループ)に連絡会議を開催した。

普及指導員から要望が出された事項については、各チーム・担当において対応した。

### B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

2017 年 6 月 26 日に佐伯市沿岸地域、6 月 28 日に北海道沿岸地域、7 月 4 日に東国東・別府湾沿岸地域、7 月 10 日に豊前海沿岸地域を対象としてそれぞれ会議を開催した。

表 3 に会議で報告した研究情報を示す。

### 3. 研修事業

#### 1) 視察・研修受入

小学生の団体見学を中心に、多くの視察、見学及び現地実習等に対応した。

表 4 に視察受入実績を示す。

また、赤潮、魚病、水産加工等各担当ごとのテーマ別研修も実施した。

表 1-1 大分県農林水産研究（水産研究部）アドバイザー会議委員名簿

所 属	役 職	氏 名	備 考
(国研) 西海区水産研究所 マグロ増養殖研究センター	主任研究員	森岡 泰三	学識経験者
高知大学農林海洋科学部 海洋生物生産学コース水族栄養学研究室	准教授	深田 陽久	学識経験者
九州大学大学院農学研究院 生物機能科学部門	准教授	島崎 洋平	学識経験者
(国研) 水産大学校生物生産学科 生物環境学講座	教 授	村瀬 昇	学識経験者

表 1-2 大分県農林水産研究（水産研究部）アドバイザー会議に付託した新規研究課題

研 究 課 題 名	担当チーム	研究期間
タチウオ資源回復に向けた受精卵放流及び種苗生産技術の開発	栽培資源チーム	H30～H32年度
新たな高品質かぼす養殖魚の開発	養殖環境チーム	H30～H32年度
ICTの活用と農水連携による赤潮対策技術の開発	養殖環境チーム	H30～H32年度
人工種苗ロープの開発によるひじき養殖技術の確立	浅海チーム	H30～H32年度

表 2 大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会の発表課題

発 表 課 題 名	発 表 者	
津久見湾アオリイカの資源管理に向けた基礎生態研究 ～成長と成熟～	栽培資源チーム	主幹研究員 内海 訓弘
別府湾シラス予報の検証 ～予報を下回った要因とは～	栽培資源チーム	研究員 竹尻 浩平
香々地地先におけるヒジキ母藻ブロック設置による資源量増大 対策の試み	北部振興局	主 査 西山 雅人
アユの不漁につながる環境条件とは ー河川水温と水位の関係ー	内水面チーム	研究員 吉井 啓亮
下水処理水の栄養塩類が植物プランクトンの増殖およびアサリ 稚貝の成長に及ぼす影響	浅海チーム	研究員 菅沼 倫美
中層赤潮浮上装置による <i>karenia</i> 赤潮抑制の試み	養殖環境チーム	研究員 大竹 周作
姫島周辺海域におけるオニオコゼの年齢と成長及び成熟	浅海チーム	研究員 山本宗一郎
緑色 LED 光の使用によるヒラメ養殖期間短縮の可能性	養殖環境チーム	主任研究員 都留久美子
培養スクーチカ繊毛虫に対する海産魚類血清添加の影響	養殖環境チーム	主任研究員 木本 圭輔
ヒラメ養殖におけるナナホシドア検査キットの実用性	養殖環境チーム	研究員 甲斐 桑梓
本県におけるブリ種苗生産の改良点	栽培資源チーム	研究員 山本 桂伊
大分県地先におけるカクレガニ科のカニ「ピンノ」のアサリ への寄生実態	浅海チーム	主幹研究員 金澤 健
豊後水道南部地区におけるイセエビ増殖礁効果について	水産振興課	技 師 安原 翔太

(注) 表は発表順である。連名発表は筆頭者のみ記載した。

表3 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績と報告した研究情報

開催日（場所）	対象地域	研究情報・報告者
2017年6月26日 （佐伯総合庁舎）	佐伯市沿岸	研究概要について各チームリーダーが説明
2017年6月28日 （県漁協臼杵支店）	北海部海域沿岸	研究概要について各チームリーダーが説明
2017年7月4日 （日出総合庁舎）	東国東・別府湾沿岸	「マナマコの種苗生産・放流技術開発について」 浅海チーム 研究員 宇都宮のぞみ
		「タイラギ養殖試験の概要について」 浅海チーム 主幹研究員 金澤 健
2016年7月10日 （浅海・内水面グループ）	豊前海沿岸	「大分県海域で漁獲されるハモの生態的特徴について」 浅海チーム 主任研究員 白樫 真
		「タイラギ養殖試験の概要について」 浅海チーム 主幹研究員 金澤 健
		「ガザミの放流技術開発について」 浅海チーム 研究員 山本宗一郎

表4 視察等受入実績

区分	水産研究部		浅海チーム		内水面チーム	
	件数	人数(人)	件数	人数(人)	件数	人数(人)
視察・見学	20	230	3	26	4	22
うち、国外※	1	3	0	0	0	0

※チェコ

(注) 文書等により依頼があったもので、概数である。